EDITORIAL

行動疫学とヘルスプロモーション
Behavioral epidemiology and health promotion

保健医療における行動科学（Behavioral Sciences）は、人間の健康行動を科学的に追究してその法則性を解明しようとする学際的な分野であり、行動変容のための個人レベルの支援的アプローチと社会的環境およびヘルスケアシステムの評価など保健政策としての社会的アプローチに活かされている学問領域である[1)]。この行動に焦点をあてたヘルスケアは、健康に関する個人の自立として極めて有用なアプローチである。

行動疫学の意義

口腔保健を例にすれば、う蝕や歯周病に代表される口腔疾患は、口腔細菌叢のなかのある種の細菌が異常に増殖することによって歯の周囲にdental plaque（biofilm）が形成され、それが原因となって発生する。しかしその“原因の原因（cause of cause）”は、摂食行動（food intake behavior）、口腔清掃行動（oral hygiene behavior）、歯科受診・受療行動（dental visit behavior）など日常的な行動にかなり左右されるものであり、臨床の場面や地域保健のなかでこの行動の変容・維持のための健康教育とヘルスケアの評価に活かされている。しかも、これらの口腔保健行動は、口腔保健にとどまらず、生活習慣病の日常的なリスクの中に含まれていくものであり、common risk approachが可能である[2)]。

しかしながらこれらの行動は、個人レベルの性・年齢あるいは認知領域に関わる要因だけでなく、社会・環境的要因に影響されるものであるが、個々の行動に関する因子は必ずしも明確ではなく、行動変容へのアプローチが体系化されるまでにはいたっていない[3)]。例えば、WHOの“Risk factor model for the oral health”をみると、行動に関連するリスクファクターとして、ヘルスケアシステム（Health system and oral health service）、社会文化的リスクファクター（Sociocultural risk factors）、環境的リスクファクター（Environmental risk factors）の３点に集約されている[4)]。一方、ヘルスプロモーションは、個人と環境への支援的アプローチを通して人々が自立していくプロセスであり[5, 6)]、何がその時代や地域で人々の健康行動に影響する因子であるかを明らかにして、支援の優先順位を決定することが求められる。これらの行動の要因を疫学的な手法を用いて明らかにする手法のひとつに行動疫学（Behavioral epidemiology）は位置づけられる。

成人保健の類型化

ところで、ヘルスケアはアウトカムをどこに設定するかによってその評価手法は異なってくる。アウトカムには、口腔保健状態、口腔機能の障害、QOL、全身的健康などが考えられるが、このとき、口腔保健状態のなかの何を指標とするかについては専門家の間でもコンセンサスが得られているとはいえない。エンド・ポイントを回復可能な状態に焦点をあてるのか、口腔疾患の進展度か、歯数か、咬合の維持かといった問題である。また、口腔機能についても、摂食機能だけでなく発話や表情をどのように指標化できるかという課題は大きい。現在、生活習慣病を中心とした成人保健は世界的な健康課題となっているが、特にこの分野には、小児保健や高齢者保健に較べて個人と環境との両面へのアプローチが求められる。そして、成人保健には20歳代から60歳代まで年齢特性が大きく、しかも本人の主観的評価が行動を決定する大きな因子のひとつである[7)]。

成人保健の類型化として例えば、①主観的な口腔機能・訴え、②口腔保健状態、③保健行動、④支援的

環境などを総合的に評価し、専門家だけでなく人々もその成果を共有できる指標が求められる。この成人保健の類型に基づく体系化を通したヘルスプロモーションに行動疫学の手法は欠かすことができないものであると考えられる。

深井穫博
深井保健科学研究所所長
Kakuhiro Fukai, D.D.S., Ph.D
Director, Fukai Institute of Health Science

文　献

1）Glanz K., Rimer B.K., Lewis F. M. : Health Behavior and Health Education theory, research, and practice, 3rd edition, Jossey-Bass, San Francisco, 2002.
2）Watt R.G.: Strategies and approaches in oral disease prevention and health promotion. Bulletin of the world Health Organization, 83（9）. 711-718, 2005.
3）Marmot M., Wilkinson R. : Social Determinants of Health, 2nd edition, Oxford
4）Petersen P. E., Bourgeois D., Bratthall D., Ogawa H. : Oral Health information systems-towards measuring progress in oral health promotion and disease prevention. Bulletin of the world Health Organization, 83（9）. 686-693, 2005.
5）Green L. W., Kreuter M. W. : Health Program Planning an educational and ecological approach, 4th edition. Mc Graw Hill. New York. 2005.
6）Tones K., Tilford S. : Health Promotion effectiveness, efficiency and equity, 3rd edition, Nelson Thornes. United Kingdom. 2001.
7）深井穫博：歯科健診における保健指導の４つの類型化，ヘルスサイエンス・ヘルスケア，5，59-64，2005.